

⑤4 荒川地区水産生産基盤整備事業

受賞機関 長崎県 五島振興局 建設部 河港課
長崎県 水産部 漁港漁場課

キーワード 漁場環境に配慮した計画・施工、養殖業の推進、民間企業の参入

全建賞審査委員会の評価ポイント

五島列島福江島の荒川漁港では、生産拠点漁港としての機能強化を図るため、定置網やマグロ養殖の準備作業の効率化を目的とした用地整備を実施。地域におけるマグロ養殖の展開に必要な施設を整備するため、計画の段階から民間事業者等と協議を重ねたほか、環境に配慮した工法を採用するなど、事業効果が高くなる実施方法を採用し、水産物の安定供給に貢献した取組が評価された。

1. はじめに

荒川漁港は、五島列島福江島の西部に位置する第4種漁港である。当地区が位置する下五島地区では、平成8年度から民間企業によるマグロ養殖が開始され、平成10年度以降には本格出荷が開始されている。同地区でクロマグロ養殖業を行っている5者のうち、3者は当地区に隣接した玉之浦湾を漁場にしており、クロマグロ養殖の基地としての役割を担っている。

2. 事業の概要

当地区は、限られた狭隘な用地の中で定置網の補修や保管が行われている。また、クロマグロ養殖の生簀の組立てや網の補修は、他港まで資材を運搬し、作業する必要があり、作業効率が悪く、用地不足が課題となっていた。

また、計画策定当時、豊田通商株式会社におけるクロマグロの人工種苗生産施設の適地選定の情報を迅速に入手した。これを受けて、荒川漁港が抱えている用地不足の課題解決と合わせ、将来的な利用方法を見越し、防波堤や用地等の漁港施設の計画を立案し、整備を行った。



施設整備後の荒川漁港

3. 事業の成果

平成26年度には、豊田通商株式会社によるクロマグロの人工種苗生産施設の建設が発表され、翌年度より運用を開始し、完全養殖による安定した生産体制を確立した。漁獲制限がない人工種苗によるクロマグロ養殖が、生産量の増加を可能にした。また、当漁港の主要漁業である定置網業の安定的な操業体制を確保し、民間参入による新たな雇用も生まれ、地域活性化にも寄与した。

さらに、水質や騒音等の変化に敏感なクロマグロのストレスを最小限とするため、計画段階より関係する漁協やマグロ養殖業者と綿密な協議を重ね、防波堤の軟弱地盤対策においては、砂を材料としたサンドコンパクションパイル工法を採用し、環境に配慮した工法を選定した。加えて、漁場環境への影響を把握・管理するため、施工期間中も海域環境調査を実施した。受注業者も独自に水質調査等を実施するなど、官民協力のもと漁場保全に努め、関係者とのトラブルもなく、無事に完工した。

4. おわりに

本事業では、当地区の主要漁業であるクロマグロ養殖や定置網業等の安定的な操業体制を確保し、将来を見据えた計画とした。

また、事業期間中には地元住民参加型のシロギス稚魚放流体験会等を開催し、水産資源の保全や地域の美化に対する意識向上も図られた。これらの取組は、ニュースや新聞等のマスコミにも取り上げられた。

今後も社会情勢の動向に目を向けながら、水産業や地域の発展に寄与する水産基盤の整備に努めていく所存である。



稚魚放流体験会

賛助会員 復建調査設計(株)、扇精光コンサルタンツ(株)